平成30年３月20日発行

鹿児島県立博物館

# 鹿博だより

No. 98

奄美大島のサガリバナ

サガリバナの花は６～７月頃，日が沈むと咲き始め，明け方には散ってしまいます。花弁は４枚で，多数の雄しべが特徴的です。奄美大島では植栽されたものも見られますが，本来はマングローブの周辺に生育する植物です。

## 「変わっていく」

主任学芸主事　　長船　祐介

「『ブキミな動物展』は面白かったよ。」

平成28年夏に行った企画展は，子どもやその保護者だけでなく，一般の方にも好評で，２万８千人を超える方々に来場していただきました。

博物館ではリピーターの方にも関心をもっていただけるように，来るたびにどこか変わっていく博物館を目指した活動をしています。

その一つが，年間７本行っている企画展です。また，２か月毎に特別整理点検日を設定して，展示物の更新をしています。楽しい実験や天文教室など教育普及活動の内容も毎年少しずつ変えています。

変えることが難しいのは常設展示物です。一か所を変えると，全体のテーマや雰囲気を崩してしまいかねません。とはいえ，年数が経ってくると，展示物の傷みや世の中の状況と合わない部分が増えてきます。

本年度，27年ぶりとなる３階展示場全体のリニューアル工事が行われています。４月末の大型連休前にはオープンを予定しています。

オープン後は，滞在時間が短いと言われる３階展示場で過ごす時間が伸び，鹿児島の自然について知りたいという大人の方にも御満足いただけるのではないかと思います。

また，３階展示場を活用したミュージアムトーク，関連した企画展も計画しています。これからも，来るたびに何か変わっていく博物館に努めていきますので，どうぞご期待ください。

# リニューアル工事進行中！

2018年４月末のオープンを目指し，博物館の３階ではリニューアル工事が急ピッチで進められています。2017年11月末には３階展示に出されていた剥(はく)製などを収蔵庫に移し，工事関係者に引き渡しました。

野生化牛の撤去・搬出

その後，古い壁や展示ケースなどを解体・撤去し，新しい展示会場へと生まれ変わる準備を進めています。

工事を進めると，予想もしなかった様々な問題点も出てきます。しかし，「より良い展示にしよう」という意識の下，博物館職員と施工業者との協議を重ねつつ，工事を進めています。

新たな展示のテーマは「鹿児島の人々と自然のつきあい方」です。内容として①「様々な環境に，様々な生物が関係を持ちながら生活し，その生きものたちが個性的な特徴を持っている」という，生物多様性の紹介②少なくとも４回のカルデラ形成を伴う大噴火を経験してきた，県内の地質的な特徴の紹介③本館の持つ特別な標本を展示するコレクションギャラリー，という３つのコーナーを作りました。

工事中の３階

子供だけでなく，大人の方々にも「なるほど」と満足してもらえる展示を目指し，関係者が一丸となり，リニューアル工事が進行中です。オープン後には多くの方々にご来場いただき，色々な感想をお寄せいただけると幸いです。

# ＜企画展＞マングローブとゆかいな生きもの

平成30年３月24日(土)から６月10日(日)の会期で企画展「マングローブとゆかいな生きもの」が開催されます。マングローブを構成する樹木は，干潟という特殊な環境に適応するために様々な工夫をしています。特に根は特徴的で，支柱のようなものや板のようなものがあります。企画展ではパネルで紹介するとともに標本等も展示しています。

奄美市住用のマングローブ

また，マングローブに生息するゆかいな生き物も紹介します。その中でも一番の目玉はトビハゼです。魚ですが，水の中はあまり好まず，干潮時は干潟の泥の上をぴょんぴょんと飛び跳ねています。企画展では生きたままのトビハゼを大型の容器で飼育展示しますので，是非ご覧ください。

愛くるしい表情のミナミトビハゼ

# 人と共に生きる鹿児島の自然遺産収集保管事業

鹿児島県は南北に長く，多くの離島を有しています。そのため各地域ごとに環境が異なり，生育する生物も様々です。それらの分布状況を明らかにする目的で平成28年から32年までの５年間「人と共に生きる鹿児島の自然遺産」収集保存事業を行っています。

動物分野は今年度，トカラ列島小宝島等で資料収集を行いました。特に，剥(はく)製標本用のエラブウミヘビ等，この島に特有の爬虫類を中心に収集活動を行いました。

海岸の洞窟内にいたエラブウミヘビ

エラブウミヘビの他にも，地元の方の協力を得て，小宝島と宝島にしかいないトカラハブを収集することができました。トカラハブは，平成30年度開催予定の企画展で，ニホンマムシやヤマカガシなどの毒ヘビと共に，飼育展示を行う予定です。

鹿児島の豊かな生物多様性を紹介するためにも，県内各地で資料収集を続けていきたいと思います。

滞在中に，集落内で捕獲されたトカラハブ

# 博物館でボランティアをしてみませんか

博物館では大学生以上を対象にした一般のボランティアの会と中学生・高校生を対象にした中・高生ボランティアの会の２つの組織があります。

一般を対象にしたボランティアの会では主に標本の整理や天文教室の補助活動などを行っています。中には十年以上のキャリアを持つボランティアもおり，収蔵資料に非常に詳しい方もいます。

中・高生ボランティアの会には平成29年度は51人が登録し，実験工作の準備や展示の解説等を行いました。平成29年10月14日には「博物館が中高生に乗っ取られた！?～中・高生が博物館を運営する日～」というイベントも行いました。このイベントは，博物館の受付や展示解説，実験など全ての業務をボランティアが運営するというものでした。展示内容について事前に詳しく調べ，学芸主事も顔負けの展示解説を行ったり，自分たちで考えたオリジナルの実験を行ったりするなど，私たちの想像をはるかに上回る積極さで取り組んでくれました。お客様にとても好評だったので，来年も実施する方向で計画中です。

平成30年度もボランティアを募集します。募集要項は博物館ホームページに掲載しますので，そちらをご確認の上，ご応募ください。

展示解説

オリジナル実験

展示紹介

## 希少な野鳥

鹿児島県は島々が南北に長く連なり，渡り鳥が南の越冬地と北の繁殖地を行き来するルートになっているので，滅多に見られない希少種が観察されることもあります。本館２階の企画コーナーでは現在，当館が最近収蔵した標本の中から，特に希少な野鳥をいくつか展示しています。

例えば，展示中のヤイロチョウは数が減少して国内希少野生動植物種に指定され，保護されている貴重な野鳥です。この剥（はく）製は，2016年５月に桜島の桜峰幼稚園で死んでいたのを発見した職員が当館に送付してくださり，標本として収蔵されることになりました。当館にはこれまでヤイロチョウの標本はなかったので，提供していただいた方には感謝の気持ちで一杯です。

このように，当館で収蔵している鳥類の標本は，生きている状態で捕獲したわけではなく，事故などで死亡したものを博物館が譲り受けて，剥製標本にしたものが大部分なのです。

今後も県内の鳥類の剥製標本を製作して保存していくためには，このような落鳥が多数必要です。状態の良い落鳥を見つけた時には，ぜひ博物館にお知らせください。標本となって長く保存され，展示されることがあるかもしれません。

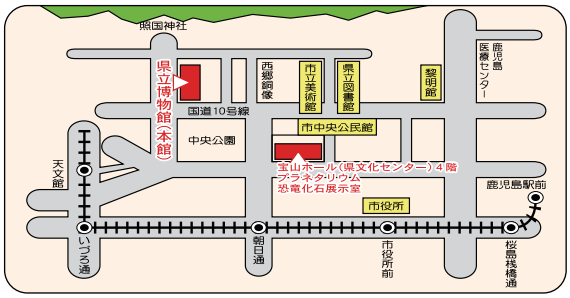
ヤイロチョウの剥製標本

## 学芸室の窓から

下の写真は，曇り男には珍しく，良く晴れた明け方に撮影できた，イプシロンロケット３号機が打ち上げられた時の写真です。いろいろな条件が重なった結果，普段のロケット打上げでは滅多に見られない様子を見ることができました。しかし，これで運を使い果たしたのか，１月31日の皆既月食，２月３日のSS-520ロケット５号機の打上げとも，天候のせいで見ることができませんでした。

今年は７月末の皆既月食や火星の大接近など，珍しい天文現象が目白押しです。今年の運がまだ残っていることを祈りつつ，これらの天文現象を楽しみにしたいと思います。

●鹿博だより　編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853　鹿児島市城山町１番１号
TEL 099-223-6050　FAX 099-223-6080




ホームページ　http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/